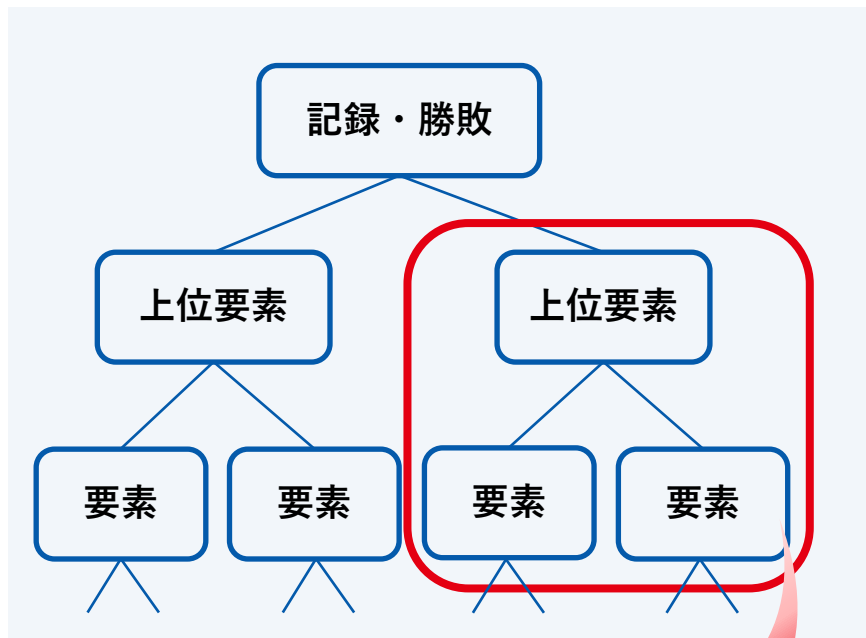
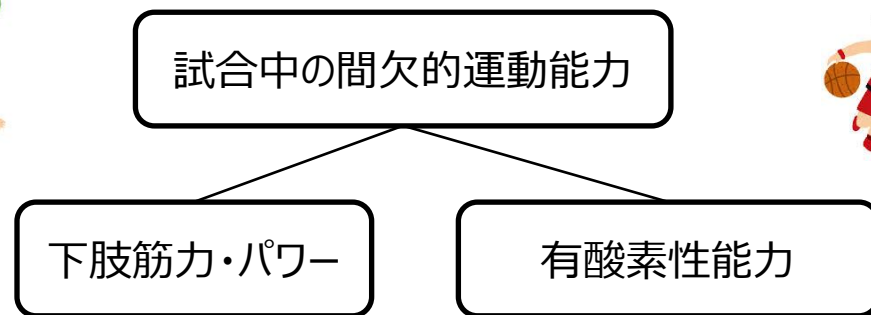


パフォーマンス構造モデルに基づいた支援プロセスの確立

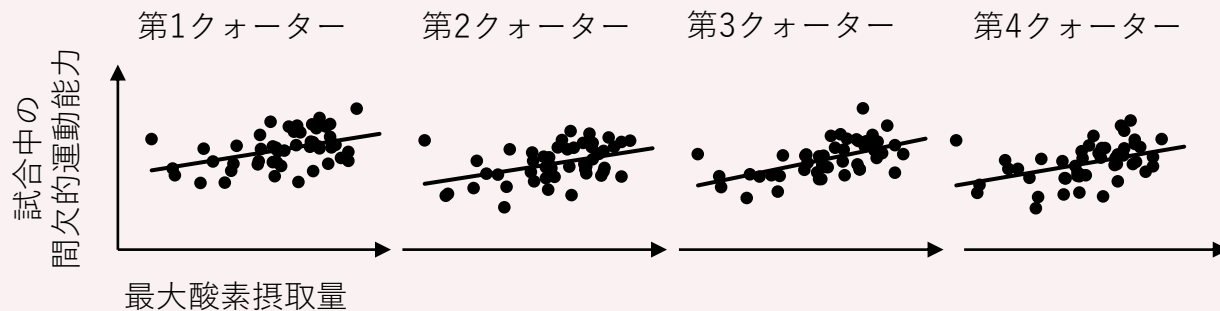


- ・モデル内の特定の上位要素と直下で構成する要素をミクロ的に観察する。
- ・構成要素の変化が上位の要素を改善・改悪する機序を明らかにする。

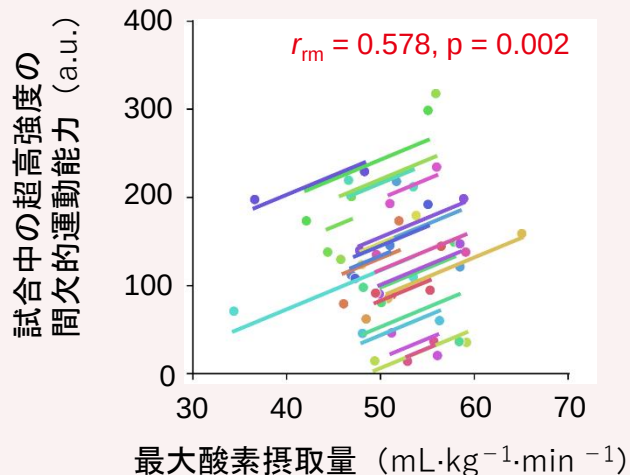
中項目1：球技・ラケット系種目における間欠的運動能力



2024年度実績（バスケットボールを対象に横断研究）



2025年度実績
(バスケットボールを対象に縦断研究)

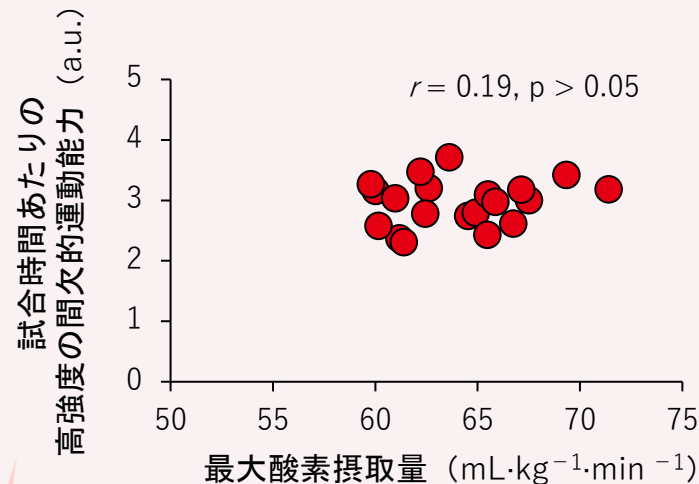


有酸素性を改善するコンディショニング・トレーニングにより、バスケットボール選手の試合中における間欠的運動能力を最適化できることが示唆された。



2026年度は、エリートバスケットボール選手への実装を目指す。

2025年度実績
(バドミントンを対象に縦断研究)



大学生バドミントン選手の有酸素性は非常に高いため、試合中における間欠的運動能力の制限因子としての影響は小さいことが示唆された。



2026年度は、エリートバドミントン選手での検証を継続し、バスケットボールと同じコンセプトでのエリート選手への実装を同時並行で進める。